氏家幼稚園だより 26号

H28. 11. 16

見てもらうために練習を重ねて

幼稚園の桜の木や欅の木の葉が紅や黄色に色づき始め、初冬が感じられる昨今です。

外で作業をしていると、年中さんがコスモスの咲いていたところを指さして「なんであれ（コスモス）なくなっちゃったの？」と尋ねてきます。「寒くなってきたから枯れちゃったんだよ」その答えでは満足していない様子です。「寒いから死んじゃったの？カエルも？」「死んだんじゃなくて、ちゃんと種を残したんだよ。カエルは温かい土に中に潜っちゃったんだよ」「ふーん」。

また、来年同じことをここで話そうね。

発表会の季節です。

本番も楽しみですが、作り上げる過程を皆様にも楽しんでいただきたく特集を組みました。これまで子どもたちがどんなことに興味をもって盛り上がってきたのか、また、それを生かして発表会を作り上げていく様子を楽しんでください。

ひよこ組

ラーメン体操や勇気１００％の曲に合わせて体を動かすことを楽しんでいるひよこ組さん。

現在は、新しい曲で体を動かす活動を行っています。

曲に親しみがもてるようにキャラクターのぬり絵やお面作りをしたり、お面を身に付け遊んだりする中で、他の動物にも興味をもち始めてきました。

また、タンバリンや鈴やカスタネットなどの楽器を使い、音出しやリズム打ちを楽しんでいる子どもたちもいます。

いちご組

いちご組は、自然環境に親しんで遊ぶことを楽しんでいました。夏にはトマトを収穫して味わい、ゴーヤやかんぴょうが実っていくのを興味をもって観察しました。かんぴょうの実をくりぬいて作ったハロウィンの飾りを飾って、拾ってきたどんぐりで音の出るおもちゃを作り遊びました。自然物や様々な素材を使って楽器作りをし、音を出して遊ぶ楽しさを感じています。

思い思いに音を鳴らしたり、音楽に合わせてリズム遊びをしたりして友達と合わせることも楽しんでいます。友達の楽器にも興味をもち交換して遊ぶ姿も見られます。

発表会では、物語に乗せて楽器の発表をしようと話し合っています。

ぶどう組

9月末から人形を使ってままごとが始まり、次第に人形になりきる遊びとなりました。そこで、劇などで使われる台を用意したところ、自分は隠れて人形だけを出し、人形劇のような遊びがスタート。場所の取り合いで「こっちきついの！」「それ使うの！」とぶつかり合うことも。遊ぶ中で不思議と遊び方が成長し「あるところにウサギがいました」とナレーターになる子も出てきました。

11 月に近づくにつれ、人形ではなく、自分の体でなりきって表現する経験につなげるために、お面を作り、それぞれがなりたいものに変身しました。友

達とのかかわりの中で、羽を作ったりベルトを作ったりしました。
　11 月になって「トンネルを作りたい」「バスに乗ってリンゴ狩り」のイメージを膨らませ、自分たちでそれらを作り、なりきっています。どのような内容になるのか、担任としても楽しみです。

さくらんぼ組

　「友達と一緒」を楽しんでいるさくらんぼ組の子どもたち。
　最近は「おおかみさん」の曲に合わせての追いかけっこが大好きで、キャーと逃げ、隠れつつも、見つかったらどうしようというドキドキ感も楽しいようです。オオカミ役になったり、オオカミをやっつけようとブロックで作った道具を持ち出して反撃したりする子も出てきています。自分で道具を作ることを楽しんだり、いろいろなものに変身したりしながらごっこ遊び、表現遊びを楽しんでいます。

もも組

　「やきいもグーチーパー」の歌をきっかけにじゃんけんに興味を示し楽しんでいる子どもたち。
　じゃんけんのキャラクターが出てくる「つよくてよわいぞじゃんけんぽん」の絵本を読むと、さらに子どもたちの興味関心が湧いてきます。最近は自分自身がじゃんけんのキャラクターになったり、保育者や友達とからだじゃんけんをし、自分なりのグーやチョキ、パーを表現したりすることを楽しんでいます。

みかん組

　歌やダンスが大好きなみかん組。4 月当初から歌を歌ったり踊ったりする姿が見られました。新しい季節の歌にもすぐに興味を示し、遊びの途中やふとした時に口ずさんでいます。
　運動会を経て身体で表現することも上手になりました。運動会の後も「歌かけて！」と言っては、毎日部屋の中で遊戯や旗体操を踊っています。
　動物になりきって遊ぶ姿が見られてきました。ある日「キンコンかえるのの

どじまん」という絵本を読むと、「ぼくも上手に歌えるよ！」と言って、のど自慢大会が始まりました。

手に持ったマイクとスタンドマイクを用意すると、すぐに手に取り「〇〇かけて！」と言って、自分の作ったお面をつけ、「のどじまん大会」と名付け、歌ったり踊ったり、自分なりの表現を楽しんでいます。

あじさい組

「〇〇ごっこ」が大好きなあじさい組の子どもたち。毎日子どもたちの頭の中には様々なイメージの世界が広がっているようで、遊びの中の役になりきって遊んでいます。そんな普段の遊びの一部分を取り入れて子どもたちとお話作りが始まりました。

まず、夏休み明けから継続して遊んでいるロケット遊び。

段ボールの囲いをロケットの機体に見立てて、内側には様々な部品で作った操縦桿をつけました。絵本を見ながら作ったので、本物のコックピットのようです。

操縦席に座ると「ロケット発射！どこへ行く？」

「宇宙！」

「宇宙人っているの？」

「隕石だー、ぶつかるー！！」と、会話もふくらみ、これだけでもう劇のようなお話になっていて驚かされました。

次に動物ごっこをしている友達、忍者ごっこをしている友達とのかかわりがもてるようにきっかけを作ると、どんどんお話のアイディアが出てきました。今は物語の面白さが定着していくよう十分に遊び込んでいるところです。

これからどんなお話になっていくのか、ドキドキ・ワクワクしながらお待ちください。

すみれ組

牛乳パックやトレー、プリンのカップなどの素材を使い、どんぐりを転がして遊ぶ姿が多くみられます。

転がる距離が延びると喜び、どんぐりの形を変え「これはどうかな？」と考えながら遊ぼうとする姿も見られます。

動物のお面を付けるとなりきって楽しく遊んでいます。今、「おむすびころりん」の物語を子どもたちと読んで、子どもたちから出されるイメージとアイディアを生かしながら創作劇を作っているところです。

たんぽぽ組

10 月後半に子どもたちの提案で「ハロウィンをしよう」ということになり、おばけの仮装をし、素材を使っておばけを作ったり、お客さんを呼ぼうと〝ハロウィンパーティー“と名付けてお店屋さんごっこをしたりしました。

その経験から、見ている人を驚かせることをしたいという思いが芽生え、タンポポ組は〝おばけ“をテーマに劇遊びを進めています。「どうやったら、怖くなるのか」「驚かせるにはこうしたらいいんじゃないか」等、友達とアイディアを持ち寄り、少しずつ作り上げています。

ばら組

運動会を経験した事で、友達同士のつながりが広がり、少人数で遊んでいた子たちが 5、6 人で遊ぶようになってきました。そんなある日、一人の女の子がネコのまねでおままごとをしていると、「私もネコになる！」とほとんどの女子がネコに変身。それを見ていた男の子は恥かしい気持ちはありましたが、楽しくネコになって遊んでいる女の子たちに刺激を受け、ネコ、ライオン、トラ、エサをあげる人など、それぞれが自分のなりたいものになり、いつの間にかほぼ全員が動物になって遊んでいる時がありました。

ばら組になってたくさんの本や紙芝居を読んできましたが、やはり子どもたちの興味を引くものは「動物が出てくるもの」と「ネコが主役のもの」。あの日から、自分がネコや動物になりきって遊ぶことを楽しんだり面白がったりしていたと感じました。

現在子どもたちは「１１ぴきのねこふくろのなか」、「にゃんこにんじゃ」、「ブレーメンのおんがくたい」の３つの話に夢中になり遊んでいます。

それぞれが、好きな役になりきったり、好きな場面を再現したりして遊んでいるところです。

どのお話にもネコが登場し、３つの物語を合体させた遊びやお話作りが見られています。

かもめ組

折り紙が大好きなかもめ組の子どもたち。夏休み明け、いるかと魚の折り紙がブームになり、その後、遠足で大洗水族館に行ったことによって海の生き物への興味がぐんと深まりました。

そのままブームは続き、発表会のテーマは「水族館」に決定。さらに話合いをし、役になりきる遊びが好きなかもめ組の子どもたちは「魚の役になりたい」と、それぞれが好きな海の生き物になることに。できるのに自信がない、あっているのか不安・・・、という姿が多かった 4 月に比べ、自信も付き、できるようになったことが増えました。

さらに子どもたちの自信や達成感、クラスのみんなで力を合わせて頑張る経験につなげたいと思い「できるようになったこと・自信のあること」を発表会で披露しようと思っています。バック絵はすべて子どもたちが手作りし、衣装もそれぞれリメイクしています。各グループに分かれ、一日ずつ目標を決め自主的に練習に取り組んでいるところです。

くじら組

発表会の活動を始めて約 2 週間ほど。

自分の大好きな遊び、得意な遊びからアイディアを広げた創作劇を作っています。

そんなくじら組の子どもたちを見て今思うことは「彼らにとって発表会の活動は“遊び”＝“学び”そのものなんだ」ということです。

海賊役の子たちは剣や鉄砲や船などのなりきりグッズ作り。人魚役の子たちは以前のライブごっこの経験を生かし衣装づくりをしたりセリフを考えたりしています。王様役はストーリーを考えていくうちに王様が出てきたら面白そう！と作られた役。海賊と王様との出会いのシーンを毎日練習しています。どんぐり転がしなら任せて！のピタゴラスイッチ職人。「宝箱は私たちが守っているの」と一生懸命のアクセサリー職人。それぞれが目的に向かって、ワクワクドキドキしながら毎日を過ごしている姿が頼もしいと感じています。

子どもたちも、友達と考えたことが少しずつ実現していくことで、クラスみんなで一つのことを作り上げることの楽しさに気づき始めているところです。

らっこ組

「発表会って何だろう？」から始まり、発表したいこと、見てもらいたいこと、それをどう発表するかをグループに分かれて話し合いを進めているところです。

「らっこ組の発表会の題名どうする？」と聞くと、「自分たちで決めたい」と声をそろえた子どもたち。グループで話し合いましたが、それぞれ発表する内容が異なるため一つの題名にするのは難しいと思いきや、

〇みんなの心が一つになるよ　　〇世界に一つだけの思い出

★ラッコ組のたからばこ　　〇最高の思い出の発表会

これらの案が出てきて、多数決で★に決まりました。どれも素敵な題名で子どもたちの発想に驚きと感動を覚えました。

この発表会の取り組みを通して自己発揮しながら互いに思いを主張し認め合う経験や自分の役割に対して責任感を持つことの大切さを味わってほしいと願い、子どもたちの思いがつまった「らっこ組のたからばこ」をサポートしていきたいと思います。

いるか組

「発表会があるんだけど、何やりたい？」という問いかけに対して、顔を見合わせて、すぐに「ももたろう！」との返答。

いるか組では空き時間に、「ももたろう」のいるか版の作り話をして遊んでいました。そこからイメージが膨らんでいるようです。

それから、バックの道具や小道具などすべて自分たちで決めたり作ったりしています。

セリフは「○△じゃない？」「いや、××じゃない？」と話し合って決めています。

少しずつ出来上がり、みんなの前でやってみると「おー」と歓声が上がり、拍手が起きています。